

煩惱まみれの私が

救われる唯一の道 お念仏の道

自分にとって都合よく生きたいと思いつつも、思い通りにならず苦しみ、結局はその苦しみの中に死んでいくしかないのが、煩惱まみれの私たちの偽らざる姿でしょう。

その姿を悲しまれ、どうあっても救い摂らずにはおかないと、願いを起こして下された方が阿弥陀仏です。

その願いとは、私たちには何一つ求めずに、「南無阿弥陀仏」の名号一つを与えて必ず救うという、五劫という途方もない長い時間、仏がひと時も休む間もなく考え抜かれて（五劫思惟され）出された「本願」です。

この意味するものは、仏をもってしても、五劫という長きにわたって考え抜かなければ、救う方法が見つけれられない程、煩惱まみれの私たちは救われ難いということであり、私たちの重ねてきた罪が深く重いということです。

しかし、名号一つ与えて救うという勝れた「本願」も、願いのままで終わるならば、それは絵に描いた餅と同じで、これまた空しい只の願いに終わってしまいます。

そこで、「本願」を空しい願いに終わらせないため、仏は兆載永

劫の御修行をなされました。

兆載永劫というのも時間の長さであり、私たちには想像も付かない永遠なる長さですが、この時間の長さも私たちの救われ難さを意味するものであり、これから先も永遠に救われようのない私たちということです。

しかし、今現に「南無阿弥陀仏」として在られることは、罪深く重く、これから先も永遠に救われようのない私たちが、「南無阿弥陀仏」の名号一つによって必ず救われるという証明でもありません。

私たちの救われる道は、仏から与えられる「名号」を素直に受け入れて、お念仏申す人生を歩ませて頂く以外にありません。

煩惱まみれの私が
救われる唯一の道
お念仏の道

